



佐潟の湯舟

赤塚 ガイドブック

～まち歩き&砂丘歩き～



新潟市無形文化遺産 赤塚太々神楽

- 制作／赤塚・佐潟地図研究会
- 発行／新潟市西区農政商工課
- ガイド申込／赤塚・佐潟歴史ガイド
☎070-2805-0141

2018年6月発行

「赤塚・佐潟地図研究会」

このガイドブックは「赤塚・佐潟地図研究会」が作成したものです。研究会は、コミュニティ佐潟、中原邸保存会、赤塚・佐潟歴史ガイド、赤塚郷土研究会、佐潟と歩む赤塚の会、新潟国際情報大学、市議、新潟市によって構成されています。

ガイドブックでは、すでにコースとなっている北国街道以外に、ラムサール条約登録湿地の佐潟や、御手洗潟、赤塚周辺の広大な砂丘など、さまざまな魅力をテーマとしたコースを新規に設定しました。



目次

- 1 … まちなかコース
- 7 … 佐潟コース
- 11 … 砂丘コース
- 15 … コラム



詳しい情報、まち歩き・ツアー企画・赤塚100問など、西区のまち歩き情報はホームページをチェック

<http://www.city.niigata.lg.jp/nishi/about/nishimachiaruki/index.html>

新潟市西区まち歩き

検索

まち歩き・里歩き、フットパスのすすめ

ふだん、見慣れた景色でも、私たちの住むまち・里には、自然、歴史、人、食など、よく知らないまま見過ごされてきたものやことがたくさんあります。そうした知られざる地域の魅力に直接触れたり、探してみたりするのが、まち歩き・里歩きです。こうした活動やコースのことを、イギリスでは「フットパス」と呼び、多くの人々によって楽しまれています。赤塚は魅力あるフットパスの宝庫です。

まち歩き・里歩きは気軽なレクリエーションとして、ストレス解消と健康増進にも大きな効果を発揮します。

注意事項

歩く際には、まず体調を万全に整え、その日の天候に合わせた服装を心がけてください。とくに赤塚の砂丘上は天気が急変しても避難する所がありません。晩秋は風も強まります。天気の状態をしっかり把握し、無理をしないように計画してください。

また、赤塚は中原邸を中心に発達した静かな集落です。砂丘地では農家の方々が日々農作業に従事しています。歩く際には、敷地や畑の中に入らないよう、マナーを守ってください。

お車の方は、佐潟公園駐車場をご利用ください。道路、特に農道での駐車などは、住んでいる人や農作業の妨げとなりますので、ご遠慮ください。



まちなかコース

赤塚はかつて、新潟・弥彦間の「北国街道（北陸道）」の中間地点に位置し、在郷町として栄えました。

北国街道を通り、赤塚には文人墨客・大名・皇族など名立たる人も訪れました。昭和40年代まで、佐潟や御手洗潟は赤塚地域の生活の一部として人々から利用された里潟で、潟から得られる産物は赤塚名物として知られていました。

そんなまちなかを楽しめるコースです。



明治期の赤塚



中原邸切り絵

コース

(1) 北国街道 町並み散策コース

(所要時間1時間、全長1km)

- 行程** ①佐潟→②遠藤実碑・歌碑→③潟端の道標
→④三句碑→⑤屁つぶり坂
→⑥渡辺嘉助の碑・石黒家墓地→⑦赤塚神社
→⑧大慈寺→⑨石黒家屋敷跡→⑩中原邸

(2) 砂丘畑と佐潟湖畔自然満喫コース

(所要時間1時間、全長2.5km)

- 行程** ⑩中原邸→⑬富士浅間社→⑭城山
→⑮ハーブ園→①佐潟

(3) 赤塚の碑めぐりコース

(所要時間1時間、全長1km)

- 行程** ①佐潟→②遠藤実碑・歌碑→④三句碑
→⑯長五郎薬師堂→⑪赤塚村道路元標
→⑩中原邸

(4) 赤塚の昔発見コース

(所要時間1時間30分、全長1.7km)

- 行程** ⑩中原邸→⑫浄恩寺→⑯長五郎薬師堂
→⑰観音堂→⑱大藪遺跡→⑱天神屋敷跡
→①佐潟

(5) 赤塚・佐潟じっくり味わいコース

(所要時間2時間、全長3.5km)

- 行程** ※(1)・(2)を巡るコースです
①佐潟→③潟端の道標→④三句碑→⑤屁つぶり坂
→⑥渡辺嘉助の碑・石黒家墓地→⑦赤塚神社
→⑧大慈寺→⑨石黒家屋敷跡→⑩中原邸
→⑬富士浅間社→⑭城山→⑮ハーブ園
→①佐潟



※中原邸の邸内は見学できません(春秋の一般公開で邸内見学できます)

① 佐潟

佐潟は上潟と下潟の大小2つの潟からなります。昔から漁業やレンコンの収穫など生活の場として利用されてきました。

1996(平成8)年、ラムサール条約湿地に登録。ハクチョウをはじめ多くの野鳥や夏の水生物など、四季折々の自然風景が楽しめます。



② 遠藤実碑・歌碑

戦時中に東京から内野へ疎開していた遠藤実氏が、年季奉公の途中、17歳で越後赤塚駅から出奔して上京。初ヒット曲「お月さん今晚わ」は出奔前夜、砂山から見えた月に語りかけた様子をもとに作られました。



③ 瀧端の道標

山崎の庄屋・伊藤家が建立した五輪塔で、「天保10年10月、38代日妙願主伊藤」と刻まれた供養塔です。

その2段目に「右八にあかた 西八かくだ道」と刻み道標としても使用されました。



④ 三句碑

天保年間に俳句仲間が建立した芭蕉の句碑を真ん中に、地元俳人の鶴友・誠雄の句碑があります。鶴友の句碑に美濃派16世・曙庵の付け句があり、赤塚の俳壇と美濃派のつながりの強さを示しています。



⑤ 尻っぷり坂

江戸中期の開削された坂道。当時は現在より急な坂道で、登るのに切なくて思わず尻が出してしまったことから呼ばれています。



⑥ 渡辺嘉助の碑・石黒家墓地

大庄屋・石黒家に仕えていた渡辺嘉助家の石碑。戊辰戦争で新政府軍の奥平謙輔が石黒家に滞在し633名が赤塚に駐屯。渡辺嘉助が馬や食料、宿の調達準備などを行った功績から、村の本百姓に認められた記念に嘉助が建てたものです。

階段を上った先には石黒家の墓の一部があります。



⑦ 赤塚神社

赤塚の村社。毎年4月15日には赤塚太々神楽が奉納され、市の無形文化遺産に登録されています。現在の社殿は1911(明治44)年に再建されました。



⑧ 大慈寺

曹洞宗、護国山大慈寺。1604年大藪に建てられた石黒家の菩提寺が江戸中期にこの地に再建されました。

山門には戦艦陸奥の砲台で造られた鐘があり、現在この鐘を鳴らして戦没者の供養をしています。



⑨ 石黒家屋敷跡

石黒家は赤塚近隣の村々13村(赤塚組)を治める大庄屋(割元)で集落整備や「乳ノ瀧」干拓などを行い、江戸時代の赤塚の基盤を創りました。石垣の上には街道に沿って長屋門を有した屋敷があったことから権威の高さを表していたと思われれます。



⑩ 中原邸

幕末、様々な功績により幕府から苗字帯刀御免を受けました。明治時代は赤塚など4か村、約290町歩の田畑を所有。

1878(明治11)年9月16日には明治天皇が北陸御巡幸時に行在所にあてられました。毎年、春・秋に一般公開が行われています(普段は非公開)。



⑪ あかつかむらどうろげんびょう 赤塚村道路元標

1919(大正8)年旧道路法によって各市町村に一個ずつ設置されることになりました。村中から越後赤塚駅に行く四つ角の駅に向かって左手にあります。



⑫ じょうおんじ 浄恩寺

開基は平家の落ち武者で一谷の合戦後、1185年に赤塚に移り、常恩寺を建立しました。1214年に親鸞聖人に出会い、釈尊の法名を賜り浄土真宗に改宗し当寺の初代となりました。1521年、一向宗禁制のため佐渡にわたりました。1576年禁制が解け、赤塚へ戻り現在地に再建し澤田山浄恩寺と改めました。9世釈樹誓の時、本願寺派から真宗大谷派となり現在に至っています。



⑬ ふじせんげんしゃ 富士浅間社

元禄年間、林角左衛門が江戸回米の途中に風雨にあい漂流し、邸内の神様に向かって必死に祈願し難を逃れました。帰郷後、社を造り、その神を祭ったのが富士浅間社で通称権現様といわれています。



⑭ しろやま 城山

城山は、この地の小字で、戦国時代に岩室天神山城主・小国氏の家臣が赤塚城代を務めましたが、1600年の上杉遺民一揆後に廃城となりました。



⑮ えん ハーブ園 (ハーブランドシーズン)

佐潟を臨む体験型ハーブ園。80アールの園内にラベンダーやカモミールなど100種類以上のハーブが栽培されています。



⑯ ちょうごろうやくしどう 長五郎薬師堂

当家は長左衛門・長五郎を名乗り、江戸中期に米山薬師を崇拝し、薬師堂を建立しました。8代長左衛門が1831年、不惑を祝って開いた句会の俳句の額が奉納されています。



⑰ かんのんどう 観音堂

大慈寺8世・大応牧仙が隠居のために建設。堂内には月舟宗胡揮毫の「圓通閣」と書かれた額があります。月舟は、江戸時代前期の曹洞宗の僧であり、西蒲区石瀬の種月寺の山号も揮毫しています。



⑱ てんじんやしきあと 天神屋敷跡

安土桃山時代まで、赤塚の城山という所に城(砦)があり、その城代の屋敷があったところです。隣には馬場があり、屋敷には、岩室の天神山城の小国氏の重臣が居住していたと思われています。



⑲ おやぶいせき 大藪遺跡

赤塚で最も早く集落ができた所の一つです。浄恩寺や大慈寺も最初はこの地で建立されました。1989(平成元)年の発掘調査で縄文～室町時代の遺物が発掘され、近くには泉水・舍利塚・伝村上義清塚・観音原などがあります。



佐潟コース

佐潟は流入する河川が無く、湧水と雨水で満たされています。

佐潟の恵みの魚類・レンコン・水鳥などの収入と水田の用水として赤塚の経済を支えてきました。

1996（平成8）年にラムサール条約に登録されました。ハクチョウをはじめ多くの野鳥や水生植物が四季を通じて訪れる人々を楽しませてくれています。



コース
恵みの佐潟まるごと
ウォーキングコース
(所要時間2時間、全長4km)

行程

①～⑬

オプション

⑭～⑳

① 佐潟水鳥・湿地センター

佐潟が1996（平成8）年にラムサール条約に登録されたことから、水鳥や湿地の保全の啓発・調査研究の拠点として1998（平成10）年に開設されました。



② 佐潟橋

かつて水田の灌漑用水門の前に、2003（平成15）年に風情ある木製の橋がかけられた。佐潟一周コース遊歩道の出発点となっています。



③ 芝生広場

佐潟公園駐車場に近く、子どもやお年寄りでも来られる場所にあります。広い芝生は散策やボール遊びなどに適し、東屋やベンチも揃っています。



④ 赤塚漁協小屋

漁業権を持った漁師が、漁をする為の漁具の保管・整備や休憩をする所です。佐潟では、コイ・ナマス・ライギョが獲れ、かつてはウナギもたくさん獲れました。



⑤ 自然生態観察園

佐潟の植物や水中生物などの観察ができるように、かつては田圃であった所に回遊式の木道を造りました。ハス・ヒシなどのほか、絶滅危惧種のオニバスやミズアオイもここで見られます。



⑥ 野鳥観察舎（瀧見鳥）

2階と屋上から野鳥の観察ができます。潟は全面凍結することがなく、ハクチョウ・カモ類の越冬地として知られ、オオタカなどのワシ類・オオヨシキリ等210種の野鳥が記録されています。



⑦ 佐潟炭焼き場

歩道の篠竹や中原邸の廃竹を活用し竹炭が作られています。また粉炭は畑や盆栽の有機肥料として有効活用しています。小屋は太田ハウスといい、炭焼き時の休憩場所となっています。



⑧ 杉ダコ（スギンダオ）

赤塚の砂丘地では松の木は育ちますが、杉の木は育ちません。その中で佐潟南側のここだけが杉の木が育つ場所でした。昔の木造建築には松材が多く使われていました。



⑨ 花が坂

佐潟を南北に往来する農道の要所でした。「花が坂」は急こう配で牛馬もやっと登ったといいます。昔、「ハナ」という娘が継母にいじめられ、ここに埋められたといわれています。



⑩ 漕ぎ渡り道

上潟と下潟を結ぶ細い水路に架かる道です。昔は雑草を漕ぎ分けて渡った湿地を幕末に開墾し、牛馬の通れる農道ができたといわれています。



⑪ 蓮小屋場

佐潟では漁業とレンコンの収穫が盛んでした。1942(昭和17)年に3000貫(約11t)のレンコンが採れたとの新聞記事があります。10月・11月の寒い時期、水中に入って収穫します。この小屋で暖をとってレンコン掘りを行いました。



⑫ 沈没した海賊船

佐潟のあたりは、かつて日本海とつながっていて、「海賊船が沈んだ」という伝説があります。いまでも海賊船の遺物があると語り継がれています。



⑬ 長割

佐潟と御手洗潟に挟まれた東西に長く南北に短い長方形の土地です。一つ一つの畑が細長いのでこのように呼ばれました。



⑭ 花火場

赤塚の夏祭りの際に、ここから花火が打ち上げられていました。この祭りは現在「佐潟まつり」として受け継がれ、打ち上げ場所は対岸に変更されました。



⑮ 赤塚中学校「白鳥飛翔」像

生徒会が傷ついた白鳥の世話を続けたことが日本鳥類保護連盟に認められ、表彰されたことを記念して、1964(昭和39)年に建立しました。現在も白鳥の世話や飛来数の調査をしています。



⑯ 光塚

オプション

塚が夜中に光を放つため掘ってみたら、黄金の観音像が出てきましたが、後難を恐れ埋め戻しました。その後、明治時代に二人の村人が掘り返したら純金の観音像が出て来たので警察署に届けましたが、現在は行方不明になっています。



⑰ 大清水

オプション

佐潟は周辺の砂丘に降った雨が地下水となり、至る所から湧き出しています。最も大きいのが大清水です。現在は湧水量が減っています。



⑱ 名子松

オプション

松葉は大切な燃料でした。田畑を持たない人を「名子」といい、その名子が松葉ひろいを許された松林をこう呼びました。今は一面の畑です。



⑲ おとう供塔

オプション

名子松の近くに「南無法蓮華経」と刻まれた石塔があります。赤塚の鈴木岩蔵の娘「おとう」は熱心な日蓮宗徒でこの道を通って角田の妙光寺に参詣しました。死後、ここに埋葬してほしいとの遺言で、ここに塔を建てました。



⑳ 砂丘地の畑作

オプション

江戸時代から赤塚は砂丘を利用したスイカ・タバコ・大根の栽培が盛んです。スイカ・タバコの収穫が終わると、後作として大根が栽培されてきました。近年、タバコの代わりに、サツマイモ・ネギなどが栽培されるようになってきました。



コラム 佐潟のハスの花

夏になると佐潟と御手洗潟ではハスの花が湖面を賑わせます。8月の初旬頃にはお盆に向け、地元の人たちが早朝から舟を出し、ハスが生い茂る中を進みながら、1本1本花を刈り取ります。花は赤塚の商店や近隣のスーパーマーケットに卸され、盆花として販売されます。佐潟のハスの花を買いに、赤塚を訪れてみてはいかがでしょうか。



コラム 佐潟と新潟市の鳥「ハクチョウ」

鳥役や赤塚中学校の白鳥像にあるように、佐潟周辺ではハクチョウは身近な鳥となっています。佐潟は福島潟、鳥屋野潟とともに本市に飛来するハクチョウの代表的な越冬地で、毎年4,000羽を超えるコハクチョウが訪れます。朝に潟から飛び立つ様子や夕方に田んぼから潟に戻ってくる姿はとても見ごたえがあります。



新潟市の鳥「ハクチョウ」シンボルマーク

砂丘コース

砂丘コースは、全長約76kmにも及ぶ新潟砂丘の南端部に位置する広大な砂丘地に設定されています。ほぼ全域が農地となっておりますが、標高50mを超える「見晴らしの丘展望台」からは360度の素晴らしいパノラマが展開します。佐潟からぜひ足を延ばしてみてください。新潟にこんな所があったのか!と思うことうけあいです。

砂丘ウォーキングコース
(所要時間3~4時間、全長7.5km)

行程 ①~⑨ オプション ⑩~⑬

ミニ知識

新潟砂丘:現在の海岸線に沿ってみられる砂丘(新砂丘Ⅲ)は全長約76kmにも及ぶ日本最長級の海岸砂丘です。この砂丘を含めて新潟砂丘は10列ほどから成りますが、最も古い亀田砂丘(新砂丘Ⅰ)は海岸線から10kmも内陸にあり、約7,600~4,800年前に形成されたことがわかっています。



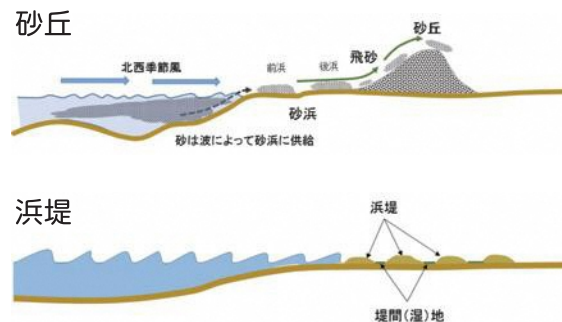
「新潟市史資料編12 自然」改変

各砂丘の形成期 新砂丘Ⅰ:7,600~4,800年前
新砂丘Ⅱ:4,600~1,400年前
新砂丘Ⅲ:1,800~900年前
砂丘の形成年代は、鴨井ほか(2015)による

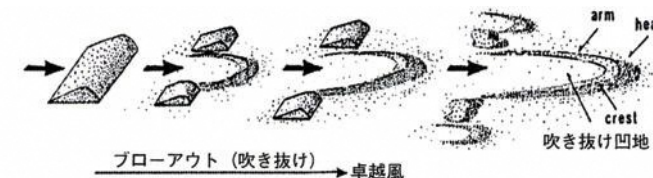


カシミール3Dに等高線を重ねて作成

砂丘:砂浜上で風に吹き飛ばされた大量の砂が内陸側に堆積して形成された丘状の地形。
浜堤:砂浜海岸において波の到達限界付近に打ち上げられた砂や礫が堆積して形成される直線状の高まり。複数の浜堤が並列したものは浜堤列と呼ばれます。浜堤と浜堤の間はくぼみは湿地となっています。



パラボリック(放物線)砂丘:適度の植生に被覆された砂丘の風上側斜面の砂が吹き飛ばされ、谷状の凹地をつくるとともに、飛ばされた砂が風下側に堤防状に堆積し、パラボラ(U字)型の形態を生じたもの。主に冬季の北西季節風によって形成されたと考えられます。ウォーキングマップで黄土色に彩色されたU字状の部分がパラボリック砂丘です。



遠藤邦彦(2017)による

① 線状に並ぶ湧水地

佐潟北岸の湖岸線から木山方面にかけて地下水の湧出地が線状に分布しています。これと同じ地下水が佐潟や御手洗潟の水源となっています。写真右は大山祇(ずみ)社。



② 神明社

延喜式神名帳に船江神社と記述された古社です。言い伝えでは、1092年の地震で神社と集落が移転し、以降「神明社」と呼ばれています。御手洗潟は船江神社参拝の際に身を清めるのに使われたことからその名がつけました。



③ 浜堤列と御手洗潟

浜堤*がつくる高まりと高まりの間の凹地に地下水が湧き出てできたのが御手洗潟です。この先の上り坂は、浜堤を覆う砂丘(新砂丘Ⅲ)がつくる斜面で、④の展望台付近がその稜線となります。



④ 見晴らしの丘展望台

新潟砂丘*の最高所の一つです。日本海側に目をやると佐渡から粟島、陸側に目を転ずると、北から鳥海山、月山、飯豊連峰、粟ヶ岳、守門、越後三山、巻機山、苗場山から弥彦・角田と360度のパノラマが展開します。



⑤⑥⑬ パラボリック砂丘*

冬季北西からの強風によって砂が吹き払われてできた谷状の地形。上方部分が欠落していますが、パラボリック砂丘の形態をとどめています。土地改良以前はこうした地形が数多く存在していました。



⑦ 地すべり地形

足元の崖とそこから角田山の方角に向かって伸びる弓状の凹地、さらに左側の緩い高まりが地すべりによってできた地形と考えられます。長さ1,100m、幅550mという大規模なもので、砂丘地には珍しい地形です。



⑧ 越前浜と佐渡眺望

道がここで途切れますが、目の前には日本海が広がり、晴れた日には佐渡が手に取るように眺望できます。左手には越前浜の集落が見えます。道の左手にある谷は大きなパラボリック砂丘です。



⑨ 馬蹄形侵食地形

佐潟南岸は急な崖となっていますが、崖は所々で奥に凹んでいます。これは新砂丘Ⅲが形成される以前に崖が風で侵食されてできた地形と考えられます。道を上ると、飛ばされた砂が高まりをつくっているのがわかります。



⑩ 赤塚地区土地改良事業の碑 オプション

1988(昭和63)年~1997(平成9)年にかけて実施された赤塚地区の土地改良事業の完了を記念して建てられた碑。この事業によって、起伏に富む未整理畑が平坦化され、県下最大級の砂丘農地が誕生しました。



⑪ 大清水湿地 オプション

佐潟上潟末端部の湧水地です。セリなど水辺の植物が豊富に自生しているほか、セスジイトトンボなどの珍しい生物もみられます。湿地となっていますので、優しく歩きましょう。



⑫ 新潟砂丘・越佐の丘 オプション

新潟砂丘で最も高いポイントにある展望台。角田山を身近に望めるほか、眼下に越前浜、角田浜、そして日本海に浮かぶ佐渡を一望できます。



コラム 赤塚砂丘のシンボル「気になる樹」

ウォーキングルート中の最高所(標高54m)近くに立つ2本のエノキの大径木。佐潟水鳥・湿地センターから見ると、1本のこんもりとした丸い樹木に見えます。なんと新幹線の車窓からも確認できます。



くにとうろくゆうけいぶんかざい なかほらけじゅうたく
国登録有形文化財 中原家住宅

現在の主屋は、1860年に建てられたもので、当主は現在28代目、先祖が漁業や水運業で財を成し、江戸後期～明治時代に財力を背景に土地の集積、「乳ノ瀧」の開発を行い、小作人841戸を有する大地主になりました。

お屋敷は約4,000坪（約13,200㎡）、建坪は約600坪（約1,980㎡）、部屋数25を有します。屋敷の裏庭には約1,000坪（約3,300㎡）の竹林を有し、春にはたくさんタケノコが収穫されます。

2018年5月には、主屋、離れ、表門及び塀（簾子塀）、裏門及び塀、煉瓦塀（イギリス積み）が、国の登録有形文化財に登録されました。



あかつかちいさ さきゅうりん
赤塚地域の砂丘林

「気になる樹」が見られる砂丘地は、かつては植林されたクロマツ林がほとんどを占めていましたが、管理放棄や松くい虫の被害が重なり急速に衰退しました。1980年前後からはエノキが自然に定着し、現在では樹木の80%以上がエノキとなっています。エノキはオオムラサキを始めとした蝶類の食樹であり、生物多様性の点からも重要な樹種です。エノキが優占するのは新潟砂丘の中でも赤塚地域のみで、都市近郊の自然林として継続して保全する必要があります。

さきゅうちのうぎょう
砂丘地農業

砂丘地で行われる農業のことを砂丘地農業と言います。砂丘地に適した作物は、大根、サツマイモ、スイカ、メロンそれに葉タバコなどです。赤塚地域の砂丘は、もとは起伏に富んだ地形でしたが、1988（昭和63）年～1997（平成9）年にかけて行われた土地改良事業によって平坦化され、大規模な砂丘農地が誕生しました。この事業によって赤塚地域の砂丘農地面積は51.6haにも達し、県下最大級の砂丘地農業地域となりました。



さとかた
里瀧

佐瀧は昔から、人々が関わりながら保全されてきた「里瀧」です。江戸時代から瀧内の周囲は水田として耕作され、瀧の水は用水として利用されてきました。また、魚・鳥・蓮などの産物は地域にとって重要な資源でした。かつての瀧での一斉清掃を参考に、地域住民、学校が中心となり、ヨシ刈りやドロ揚げを行う「瀧普請」が続けられています。暮らしの中で新たな形で佐瀧との関わりが生まれています。

どりやくさだめのこと
鳥役定之事

江戸初期に赤塚庄屋・石黒氏に出された命令書で、その中で鉄砲による狩猟が禁止されました。そのことを現在まで守り続けたことが、佐瀧が水鳥の宝庫となった要因です。



あかつかようすい きじょうぶんすいこう
赤塚揚水機場分水工

1977（昭和52）年に広通江の改修工事に際し、用水路が移設されてつくられた分水工（円筒分水）。分水工は、農業用水などで一定の割合で正確に水を分配するために用いられるものです。隣に新たに揚水機場ができるとその役割を終えました。新潟市内では唯一現存する分水工で、農業遺産として貴重なものです。



文献：新潟市瀧環境研究所（2017）2014～2016年度活動報告書—瀧と人との未来へのメッセージ。鴨井幸彦・田中里志・安井 賢（2015）暦年較正年代による新潟砂丘列の形成年代の見直し。第四紀研究、54-3。遠藤邦彦（2017）砂丘と風食地形。（2017）『自然地理学事典』。小池一之ほか編。